

2016年6月吉日

日本内分泌外科学会会員各位

## 本学会の将来について会員アンケートのお願い

専門医制度委員会委員長 原 尚人  
将来検討委員会委員長 松田公志  
日本内分泌外科学会理事長 鈴木眞一

日本内分泌外科学会では学会の発展のため将来像を見据えた改革を視野に入れ、様々な目標や問題解決を行うため将来検討委員会を設立しました（日本甲状腺外科学会でも同様のものを設立）。現在学会が抱える問題として重要課題は以下の3つであります。

1. 専門医機構にあわせた日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会専門医制度の見直し
2. 学会の法人化
3. 日本甲状腺外科学会との関係

### 1. 日本専門医機構の基準に合わせた内分泌外科専門医の見直し

ご存知のように、専門医制度の大枠が決まりつつある中で、本学会の内分泌外科専門医はサブスペシャリティー専門医に位置づけられます。日本専門医機構には、まだサブスペシャリティー専門医としては認められていませんが、現在認められるように議論しているところです。認められれば、外科専門医や泌尿器科専門医の2階部分に相当する専門医となる予定です。内分泌外科領域への若手外科医のリクルートには、専門医機構に承認されている専門医制度の確立は必要不可欠と考えられます。

### 2. 法人化について

法人法の制定後、多くの学会は法人化作業を行い、一般社団法人または公益財団法人となりました。社会的、法的には、法人化しなければ単なる人の集まりであり、何の資格も認められず、学会の通帳一つ作ることもできません。通帳については、現在は理事長名で作成していますが、マイナンバー制度によって、個人名での通帳作成はむつかしくなりつつあります。学会として将来にわたって存続していくためには、法人化は避けては通れない問題です。そのためには、現状より強固な財政基盤が求められます。

### 3. 本学会と日本甲状腺外科学会との関係について

(1) 本学会と日本甲状腺外科学会は、以下に挙げるようなさまざまな活動分野において共同活動を行っています。

・学会誌発刊・専門医制度運営・薬物療法委員会・甲状腺腫瘍ガイドライン策定・NCDへの甲状腺関係の手術登録方法の議論・外保連を中心とする保険制度改革への要望とロビー活動、など

これらの活動では、活動方針の最終決定には両学会理事会での審議決定が必要であり、また、評議員会、総会での承認も求められます。しかし、二つの学会が関与しているために、決定には時間を要し、この領域の発展と会員のための活動をタイムリーに行うのが難しい場合があります。

(2) 学会活動には、対外的な活動（外保連・保険関係の活動、専門医機構にかかわる活動など）がありますが、二つの学会に分かれて複雑であること、学会の規模が小さいことなどのために、対外的にはマイナス面があると思われれます。一方で学会が二つあるメリットもあるかもしれません。

(3) 同じ甲状腺領域に関係する二つの学会が存在するために、それぞれの学会の財政基盤が弱くなっています。学術集会開催の関係で会計年度のずれが生じ、事務処理などの経費も2学会のトータルとして多くなっています。

(4) 若手の先生方にとっては、二つの学会に入会することは負担かもしれません。二つの学会に入会しても得られる専門医の資格は一つであり、一方の学会のみの入会でも同じ専門医が取得できる状況になっている、という矛盾です。

これらの事業を適切かつ強力で推進する上で、学会の規模を大きくして財務基盤を強固にするとともに、意思決定を円滑にすることが必要と考えられます。そこで、本学会と日本甲状腺外科学会の在り方を検討する必要があると思われれます。もし両学会が発展的に統合するとすれば、その将来像は以下のようにになると予想されます。

- ・学会名：内分泌と甲状腺の両方を学会名に含め、さらに副腎外科を担当する泌尿器科医など多様なバックグラウンドの会員が了解できる名称を検討する。
- ・学術集会：従来通り春と秋に2回開催するか1回に統一するかは検討する。
- ・法人化：統合を契機に同時に法人化するのが適切と思われる。
- ・評議員選考方法：従来の選考方法をできるだけ踏襲する方向で検討することができる。

5月に開催されました第28回本学会学術総会時の理事会、評議員会で、会員の先生方の考えを教えていただくべく会員アンケートを実施することが決定いたしました。上記の背景と現状をご理解いただいた上で、同封のアンケートにお答えください。同封の返信用封筒に、回答いただいたアンケート用紙を1枚だけ封入し、6月30日着にて学会運営事務局までご返送ください。なにとぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。